

# 「赤木名小学校の八月踊り伝承活動の取組」

## 1 学校名

奄美市立赤木名小学校

## 2 学年・人数

1年生～6年生 計100人

## 3 日時・場所

### (1) 練習の日時・場所

令和4年6月15日(水), 16日(木), 7月6日(水), 7日(木)

9月8日(木), 14日(水), 22日(木), 26(月)

創意の時間・総合的な学習の時間 (本校校長室・体育館・校庭)

### (2) 発表の日時・場所

令和4年10月2日(日) 第75回秋季大運動会(本校校庭)

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

### (1) 名称

赤木名八月踊り(あかきなはちがつおどり)

### (2) 由来

八月踊りは、奄美の各シマ(集落)に伝わる男女が唄をかけ合いながらの踊りである。歴史性については、はっきりとした記録はないが、唄の歌詞などから琉球服属時代ではないかと言われている。奄美のノロ(神様)の祭りが集団踊りへ発展した、悪霊払いの火の神祭り、豊年感謝・祈念の祭り、先祖を偲ぶ祭りなど、様々な祭りを由来として現在に伝わっている。

### (3) 構成等

八月踊りは、基本的に「新節(アラセツィ)」「(旧暦最初のヒノエの日)」「芝挿し(シバサシ)」「(新節から七日目のミズノエの日)」「ドゥンガン」(芝挿しの後のキノエネの日)の3回に分けて踊られていたが、現在では、ほとんどの集落が一回で終わっている。

踊りの構成として男女別に列を作り「ほこらしゃ」を踊りながら、門から家に入り、男女分かれて一つの輪を作る。その後、座り唄(イリウタ)を唄いながら踊りが始まり、赤木名地区では、最後に「浜千鳥(ハマチジュラ)」を踊るようになっている。

## 5 保存会や地域との連携の具体

赤木名八月踊り保存会の方々が、赤木名っ子タイム(総合的な学習の時間)や家庭教育学級で、子供たちや保護者へ八月踊りの伝承活動を行っている。

今年度、赤木名っ子タイムでは、1年生から6年生まで、学年に応じて指導してもらい、低学年は唄を覚え、中学年は、唄の歌詞の意味や踊り方まで習い、高学年の中で数人は自分たちでチヂンや三線を演奏するまでになる。

上の3つの計画を立て、新型コロナウイルス感染症等の状況を見ながらであったが、赤木名っ子タイムの時間で6月から「赤木名八月踊り保存会」の皆様にお越し頂き、八月踊りの唄を覚えたり、踊りを踊ったりする活動やチヂンや三線のリズムの取り方など指導していただいた。

子どもたちは、歌詞のひとつひとつの意味を考えながら歌ったり、見よう見まねで踊ったりしながら、地域の方々とのよい交流の機会となり、たくさんの笑顔が見られた。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

貴重な文化財である赤木名八月踊りを継承していくためには、若い世代に伝えていくことが大切であると考えている。

一つは、ふるさと教育を学校経営の柱と位置付け取り組んでいる。赤木名っ子タイムや運動会などの他にも、普段から八月踊り唄にふれてもらうために、朝のボランティアや清掃時間には、校内放送で、保存会の方々が歌う八月踊り唄を流している。この放送は、校庭にも流しているため、地域の方からも「朝から元気が出る」など好評を得ている。この他にも八月踊りやシマクチなどの掲示物を充実させ、ふるさとの文化を意識できるようにしている。

もう一つは、保存会や地域の方々との連携である。日頃から管理職を中心に地域行事に参加したり、八月踊り保存会の練習に参加をしている。今年度は、12月に赤木名八月踊りのDVD収録があり、職員や子供たちも参加した。このように保存会や地域の方々の思いを受け継ぎ、連携を密にしながら、伝承活動に取り組んでいる。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【体育館での練習】



【三線を練習する様子】



【保存会の方々と息を合わせた6年生のチヂン】



【大運動会での八月踊りの様子】

## 8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【5年生児童生徒】

私は、島唄を習っているので、三線を演奏してみたいと思いました。初めのうちは、指の動きがとても難しくて大丈夫かなと思いましたが、何度か練習するうちに指の動きやリズムも刻めるようになり、本番ではとても緊張したけれど楽しく演奏ができてよかったです。

### 【教職員】

毎年、保存会の方々が、赤木名の子供たちのためにと暑い中に何度も足を運んでいただいて指導していただけるのが本当にありがたかった。

### 【保存会から】

子供たちに、八月踊りを好きになってもらい、歌詞や踊りを覚えてほしい。

### 【地域の方から】

赤木名八月踊りは奄美の宝、地域の宝であるから、後世に繋げてもらいたい。